

東海道のお富士さん……東海道沿いに残る富士山

東海道沿いは古くから開けた場所で、文化程度も高かったと思われるのだが、江戸文化の名残である富士塚はほとんど残っていない。もともとなかったのか、あるいは都市拡張に伴って壊されたのか、いずれにしても民俗遺産継承という面から見ると、下町のような意識は少なかったのだろう。

今回は東海道筋にのこる富士さんと、多摩川沿いにある大きな浅間神社を見て回ります。それぞれがかなり離れているので、電車を乗り継ぐので、いつもより交通費がかかります。

今回は 3 富士さん、プラス東海道品川宿、大鳥居、蒲田行進曲など

- 品川富士……品川神社の立派な富士山、頂上からの眺望はいい。
- 東海道品川宿……東海道の最初の宿（1601 年指定）
- 羽田大鳥居……穴守神社の鳥居だったが、羽田空港拡張のため移転
- 羽田富士……航空関係者に御利益、羽田神社境内にある。
- 多摩川富士……多摩川浅間神社の社殿自体が大きな富士塚。



みわ塾 講座 三輪主彦（みわかずひこ）

〒173-0023 板橋区大山町 33-6 090-9827-8340

ホームページ <http://kazmiwa.web.infoseek.co.jp/>

品川富士 品川神社の富士山、いつでも登れる、眺望は最高！

■品川富士（東京都品川区北品川 3-7-15）

京浜急行新馬場駅の前を国道 15 号線、通称第一京浜が通っている。この道は昭和 27 年までは国道 1 号線だったが、格下げになって、第二京浜国道が現在の国道 1 号線になっている。しかしこちらの方が本家の東海道筋で、箱根駅伝も品川駅から八つ山橋を通過して、品川神社の前を走り抜ける。

この道ができた時に品川神社の富士塚は 10m ほど後ろへ下げられたが、道路からはるかに高いところに位置するので眺めは大変いい。レインボーブリッジや天王洲の高層ビルなどみえるが、本物の富士山はどのようなだろう。解説板には富士さんの遙拝場所とあるが、私はこの頂上から富士さんを見ていない。こんどは確かめてみたいのだが・・・。

品川神社の鳥居をくぐり、石段を登ると途中から左手に曲がった登山道が見える。登山口には祠があり、その先の洞窟には富士講の開祖である食行身禄の石像が収まっている。像は古いものではない。登山道には二合目、三合目などの石柱がたっている。ぐるっと裏手に出ると品川神社の境内で、ここに浅間神社の鳥居と拝殿がある。こちらから見ると富士塚の高さは 4 m ほどだが、道路側からの高さは 15m にもなる。

富士塚はコンクリートで固められているが、もともとはクロボクとよばれる富士の熔岩だが、それだけでは足りなかったらしく、他の石も使われている。頂上にも浅間神社の祠があり、コノハナサクヤヒメが祀られている。



品川神社富士塚

品川区指定有形民俗文化財

（指定昭和 53 年 11 月 22 日民俗第 1 号）

富士塚は、富士信仰の集団、富士講の人々が、富士山の遙拝場所として、あるいは実際の登山に代わる山として造った築山である。

品川神社の富士塚は、明治 2 年（1869）北品川宿の丸嘉講講中 300 人によって造られた。神仏分離政策で一時破壊されたが、明治 5 年に再築し、大正 11 年（1922）第一京浜国道建設の時、現在地に移築された。江戸後期に盛んだった民間信仰を知る上で、大切な文化財である。

品川神社富士塚山開き

品川区指定無形民俗文化財

毎年 7 月 1 日の富士山山開きの日に、講員一同が白装束で浅間神社前で「拝み」を行う。その後はだして富士塚に登り、山頂の遙拝所や小御獄の祠でも「拝み」をして下山し、社殿にもどってから平服に着替える。かつては盛んだった行事であるが、現在も行っている富士講は大変少ない。

■品川神社

この神社の神様は三柱あり、「北の天王さま」の祭礼で知られている。天王さまというのは牛頭天王のことで、南品川にある荏原神社も天王さまを祭っている。そちらを南の天王さまと呼んで区別している。

牛頭天王（仏教における祇園精舎の守護神）は本地垂迹で素盞雄命（スサノオノミコト）と同じ神様である。

スサノオは天照大神の弟で、乱暴狼藉を働いたので天から追放され、出雲に降りてきて、そこを支配した神様である。

大国主命の奥さんのスセリヒメのお父さんはスサノオ。大国主はスセリヒメと結婚したかったが、スサノオは大国主に様々な試練を与えられた。ひどい目にあったが、いつもヒメの加護で助けられ、めでたく結婚した。因幡の白ウサギの話は試練の旅の途中のできごと。



（品川富士の上から新馬場商店街）

この神社の三柱は
天比理乃メ命（あまのひりのめのみこと）（祈願の神）
素盞雄命（風水害除、疫病除の神）
宇賀之売命（稻荷神）（農業、商業、産業繁栄の神）

由緒 社伝では源頼朝が海上交通の安全と、祈願成就の守護神として、安房国州崎神明の天比理乃メ命を勧請し、品川大明神と称したのが始め。鎌倉末期に安房の守護が宇賀之売命を勧請、1478年太田道灌が素盞雄命を勧請し天王祭りが始まった。慶長5年(1600)、徳川家康が関ヶ原へ出陣する前、戦勝祈願したことから繁栄した。

■東京十社の1つ、

明治元年、明治天皇は勅祭神社として大宮の氷川神社、准勅祭神社として『東京十二社』を定めたが、明治三年それは廃止された。戦後は神社の社格もなくなったが、昭和50年、都内の10社が、十社巡りを企画して、今日に至っている。大國魂神社、鷲宮神社は外されて、次の十社が東京十社とされている。

赤坂氷川神社、日枝神社・神田明神・富岡八幡宮・根津神社・芝大神宮・品川神社・亀戸天神社・王子神社・白山神社

東京十社は昔から社格の高い神社だと言われるが、十社として有名になったのは最近のこと。七福神巡りみたいなものだ。



（品川神社 初詣 2007年）

■品川宿

東海道第1番目の品川宿（1601年指定）は江戸時代にはもっとも賑わう宿場だった。目黒川を挟んで南・北品川宿で構成されていたが、享保7年（1722）歩行（かち）新宿が宿場として認められ、以降3宿で構成された。宿場には家々が1600軒、住人7000人という活気ある地であった。

宿場でのにぎわいだけでなく、北の吉原に対して品川は南といわれ遊興地としても有名であった。

上の浮世絵は広重の東海道五十三次である。今と違って品川宿は海に面していた。広重は品川宿の多くの飯盛り女の姿も画いている。



品川駅は品川区ではなく港区にある。その品川駅を越えて八つ山橋をわたると京浜急行の踏切がある。この道が昔の東海道である。ほぼ京浜急行の線路にそって続いており、いまでも当時の面影を残す場所がいくつもある。江戸の頃には東海道のそばまで海があったのだが、いまはるか彼方まで埋め立てが進んでおり、品川富士の上からでも遠くにしか見ることはできない。

品川宿は日本橋から2里半、ほぼ10kmだ。「お江戸日本橋 セツ立ち 初のぼり 行列そろえて あれわいさのさ コチャ高輪 夜明けて 提灯消す コチャエー コチャエー。」明け六ツが夜明けだから、セツ立ちというのはその2時間前。弥次さん喜多さんも品川にきたときにはすっかり夜が明けていたのだ。もっとも弥次、喜多は人目をばかっていたので、日本橋には行けず神田から密かに出立したのだ。

■鈴が森刑場

品川神社から新馬場駅を越えて、旧東海道を少し歩いてみよう。目黒川にかかる橋の側に荏原神社があるので参拝し、青物横丁で品川寺に参詣し、鮫洲、立会川を通ります。2.5キロほどで鈴が森刑場（品川御仕置場）跡にでます。江戸の北には小塚原刑場があり、南は浜川町の南の一本松と呼ばれるところに設置された。「鈴が森」という名は不入斗（いりやまず）村の鈴森八幡（現岩井神社）に由来するという。明治4年に廃止されるまで、数万人が処刑された。由井正雪の乱の丸橋忠弥、「お若えの、お待ちなせえ」「待てとおとどめなされしは・・・」の白井権八、八百屋お七、盗賊日本左衛門らが処刑された。



■穴守稲荷 大鳥居（大田区羽田空港 1-1）

羽田空港が昭和 6 年（1931）8 月に日本初の国営民間航空港として開港した当時、穴守稲荷神社もこの地にあった。敗戦により空港は米軍に接收され、軍用飛行場建設のためにこの地の 1200 世帯・3000 人を強制退去させた。穴守稲荷は海老取川対岸に移ったが大鳥居だけは残された。恐れ多くも、鳥居を動かそうとすると祟りがあると言われたからだ。最初は終戦直後の 1945 年 9 月、鳥居を取り壊そうとした作業員が次々にけがをしたため工事は中止。さらにこの仕事を請け負っていた業者が倒産してしまった。2 度目は 1982 年。空港拡張計画が具体化し、鳥居の撤去も決定。その直後の同年 2 月、日航機が着陸直前、逆噴射によって墜落。24 人が死亡する大惨事が発生した。またも計画は中止されたが、1999 年 800m 離れた現在地に移された。今回は地元の下承を受けていたため、祟りは起きなかったようだ。



羽田神社に行くには京浜急行「大鳥居駅」で降りるのだが、肝心の大鳥居がどこにも見つからなかった。調べてみると羽田空港内にあるようだ。私は見ていないので、今回まず大鳥居を見つけない。天空橋駅のそばにあるらしいので、行ってみよう。羽田神社の夏の大祭は、この大鳥居の下で開催される。

■羽田神社（大田区本羽田 3-9-12）

祭神 須佐之男命 稲田姫命

隣にある自性院境内に牛頭天王社として祀ってあった。この社は徳川家、島津家、藤堂家などに厚く信仰された。明治元年（1868）の神仏分離令により牛頭天王社は八雲神社として独立し、明治 40 年に羽田神社と改称された。牛頭天王は品川神社の時に述べたように、須佐之男命（スサノオノミコト）として日本に現れたものだから、神社になってからはこの名前で祭られている。境内には三つの稲荷が並んでいる。手前から「鈴納稲荷」「増田稲荷」「羽田稲荷」で、それぞれ赤い鳥居が並んでいる。



羽田航空神社というのがありますが、これは空港内にある航空関係者の神社で、こちらとは関連はない。

■羽田富士（大田区本羽田 3-9-12）

神社の拝殿の左手、回廊の裏手に羽田富士がある。これは高さが4mほどだが、熔岩で造られた本格的なものである。木花講と書かれた石碑がいくつも立っている。ちなみに石碑の石は安山岩で、富士の熔岩ではない。

「幸行修行 富士登山百三十三回、中道三十三回、雪中登山十五回」と彫られたものもある。先達は厳寒の富士に15回も登っている。それはすごいことだ。途中の行程を示す合目石もいくつかある。これは花崗岩が使われている。



説明文には大田区唯一の富士塚と書いてあるが、次に行く多摩川富士も大田区にある。これはどういうことなのか、それに大田区には富士塚の遺構はいくつもあるので、説明文はあまり信用できない。



■大師橋・多摩川

羽田神社の先が多摩川、そこにかかるのが大師橋である。大師は川崎大師のことで、ここに詣でる人々が渡った橋である。もともとは羽田の渡しがあった場所である。

この辺りでは多摩川と言わず、六郷川ということもある。鎌倉時代、この辺りは荏原郡にとよばれ永富・大森・蒲田・堤方・原・八幡塚の6つの郷によって構成されていた。そのことからこの辺りを六郷とよび、川の名前も六郷川といわれた。上流の六郷橋のたもとに六郷神社がある。

■蒲田

蒲田行進曲の松竹撮影所があった場所は、高砂香料の工場になり、さらに再開発でアロマスクエアという施設になっている。松竹撮影所は大船に移ったが、そこも現在は鎌倉女子大学になっている。

京浜急行蒲田駅とＪＲ蒲田駅、等級蒲田駅はかなり離れている。蒲蒲線の計画もあるが、東急と京急の線路の幅が違う等、問題もあってなかなか実現しない。

多摩川富士、多摩川浅間神社は全体がお富士さんだ！

■東急多摩川線・多摩川駅

東急には目蒲線というのがあった。目黒と蒲田をむすんでいたが、いまは目黒線と多摩川線に別れ、2000年8月6日、目蒲線という名前は消えてなくなった。目蒲線と東横線の接点にあったのが多摩川園駅だったが、肝心の多摩川園がなくなったので駅名は多摩川になった。現在多摩川駅は東急東横線、目黒線、多摩川線の3線が集まる交通の要衝であるが、東急全線の中で乗降客が最も少ない駅になっている。乗り換え者は多いが、地元には会社や学校がないので改札口を通る人があまりいないということだろう。



(昔の目蒲線)

■国分寺崖線

駅のすぐ脇に高台がある。この上の武蔵野の台地で、多摩川沿いの崖は国分寺のハケの道に続く国分寺崖線（がいせん）である。国分寺の辺りでは20m以上の高さがあるが、この辺りでは10m程度になる。この台地の上に古墳がたくさんある。亀甲山古墳は、南武蔵を代表する多摩川流域最大の前方後円墳で、全長107mもある大きなものだ。4世紀後半の築造と推定されている。堺市の大仙古墳（仁徳天皇陵？）が5世紀であるから、武蔵の国にも大きな古墳を作れるほどの豪族がいたのだ。

■浅間神社の社殿は古墳の上（大田区田園調布 1-55-12）

品川富士は大きかったが、羽田富士は4mほどの高さだった。都内にある富士塚は羽田富士程度の大きさがふつうだ。しかしここ多摩川浅間神社は古墳の上に造られているので、とても大きく塚とはいえない。登り口には富士の熔岩が積み上げられており、富士講の石碑もある。富士講中興の祖・食行霊神（身禄）の石碑は、勝海舟の直筆である。

現在の社殿は昭和48年（1973）に完成した優美な浅間造り様式で、都内では唯一のものです

■ 浅間神社の高台から見る多摩川の風景はすばらしいものです。下流の橋は丸子橋。このちょっと下流に 2002 年アゴヒゲアザラシの「タマちゃん」が泳いでいるのが見られた場所だ。富士山も見えるはずなのだが、数回訪れただけの私はまだ実際に見ていない。今回も天気予報ではダメそうだ。



■多摩川浅間神社

創建は鎌倉時代 戦乱をくぐり抜けて八百年

当浅間神社は今から八百年前、鎌倉時代の文治年間（285-90）の創建と伝えられます。右大将源頼朝が豊島郡滝野川に出陣したおりに、夫の身を案じ、後を追ってきた妻政子は、わらじの傷が痛み出し、やむなくここで傷の治療をすることになりました。逗留のつれづれに亀甲山に登ってみると、富士山が鮮やかに見えました。富士吉田には、守り本尊の「浅間神社」があります。政子は、その浅間神社に手を合わせ、夫の武運長久を祈り、身につけていた「正観世音像」をこの丘に建てました。村人たちはこの像を「富士浅間大菩薩」と呼び、永く尊崇しました。これが「多摩川浅間神社」のおこりです。

承応元年（1652）五月、浅間神社表坂の土どめ工事をしていたとき、九合目辺りから唐銅製の正観世音の立像が発掘されました。多摩川で泥を洗い落としてみると片足しかありません。そこで足を鑄造してお祀りし、六月一日に神事を行いました。以来、神社のご祭礼は六月に行われております。

■次回 ■ 1月6日（日） 新宿区のお富士さん

西武新宿線・下落合駅 10:00 集合

月見岡八幡・成子富士・鬼王富士・花園富士・西向天神・抜け弁天
大江戸線若松河田駅

■次次回 ■ 2月2日（土） 板橋区のお富士さん

東武東上線・東武練馬駅 10:00 集合

北町富士、下練馬富士、東京大仏、上赤塚富士、下赤塚富士、徳丸富士・
東武練馬駅 解散